

自立活動だより

大分県立聾学校
自立活動部 第1号
平成30年5月29日発行

今年度も、自立活動だよりを発行していきます。みなさんの生活に役立つことや、「きこえ」についての情報を発信していきます。

今回は、『情報保障について』です。中学部の野中先生に寄稿していただきました。イラストは、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークから参照しています。

昨年度は情報保障の1つである『UDトーク』についての原稿をあげました。今回はUDトーク以外の情報保障についての種類を紹介したいと思います。

『手話通訳』

講演会などで話した人の内容（音声情報）を聞きながら、その場で手話に通訳する方法です。また、ろう者の手話を読み取り、音声に通訳をしてくれます。この場合、手話通訳者の手話スキルが高く、通訳をされる側も手話がわかる状態であれば、要約筆記よりも多くの情報を確実に得ることができます。

<手話通訳による支援の例>



『要約筆記』

話す内容をその場で文字に変換して伝える方法です。方法は2つあり、大きく分けると手で書く方法とパソコンで入力する方法に分けられます。必要なことは、「早く書く」「正しく書く」「読みやすいように書く」ことが求められます。

【ノートテイクによる支援の様子】



特に手で書く方法は、いくつかの方法があります。ノートテイク・ホワイトボード・OHP(オーバーヘッドプロジェクター)・OHC(オーバーヘッドカメラ)です。また、話す人のスピードによって書くスピードが遅れてしまう場合があるので、話す内容を少しでも多く伝えるために聴覚障がい者関係でよく使われる言葉を全国標準略号・略語があります。

【略号】…すべて「○」で囲む

ナ…難聴 ケ…健聴 ろ…ろうあ チ…聴覚 シ…障害 など

【略語】…普通の文字だけで書く

中失…中途失聴 コミ…コミュニケーション など

パソコンを使った通訳では、1人だけでパソコンテイクをする方法があれば、複数の人が「IPtalk」というフリーソフトを使って、チームワークでパソコンテイクをする方法もあります。講演会などでよく見られるパソコンテイクは、「IPtalk」のフリーソフトを使っています。LANなどの設定が必要です。



この2つの情報保障は全国的にも行われており、大分県聴覚障害者協会のHPなどに通訳依頼を申し込めば、通訳をしてもらうことができます。詳細はHPなどをご覧ください。情報保障については、個々のコミュニケーション方法・言語力・聴力レベルなどによって、それぞれニーズが異なります。自分に合った情報保障の方法を見つけることも大切だと思います。